

有明高専だより

第49号
 有明工業高等専門学校
 〒836・大牟田市東萩尾町150.
 TEL 0944 ⑤ 1011
 印刷・久留米軽印刷(有)

第二十回

入学式式辞

本日ここに、来賓・教職員各位
 参列のもとに、本校第二十回入学
 式を挙行し、若く希望に燃える新
 入生一六三名を新しく迎えること
 が出来ますことは、本校の最も慶
 びとするところであります。

諸君は、福岡・熊本・佐賀・長
 崎などの各県から志願した、多く
 の学友の中から厳しく選り抜かれ
 た方々であり、諸君のこれまでの
 勉学と努力に対して敬意を表する
 と共に、諸君並に御父兄の皆様
 心から祝意を表する次第であります。

(高専制度)
 高等専門学校の制度は、その発
 足より二十年を経ましたが、大学
 と共に、国の高等教育機関として
 その組織、特に最近、施設設備の
 充実と格段の力が注がれ、その発
 展の基盤が一層堅められて参りま
 した。学校教育法に、高専教育の

目的は、「深く専門の学芸を教授し、
 職業に必要な能力を育成する」と
 あります。文部省での英文名では
 「工業高校・専修学校が「スクール
 ジ」であります。したがって、諸
 君は、大学の学生と同じように本
 日から、「学生」であり、高等学校
 におけるような「生徒」ではない
 ことを銘記すべきであります。

そして高専では、多くの大学の
 ようなマスプロ教育でなく、少
 数教育で五年間の一貫教育によ
 つて、大学学部と同程度の学力を身
 につけ、大学よりもより実践的な
 技術者として、個性と能力を伸ば
 すべく教育がなされます。大学及
 び大学院への進学の道も開かれ
 いることも諸君の知るところであ
 ります。

諸君はこのように、福岡県南部
 ・熊本県北部地区の最高学府の学
 生として、また地域の方々から、
 地域の小中高校生の模範となる学
 生であるように、大きな期待をか
 けていらることを、まず、自覚
 し、その「誇り」をもって中学生
 活より脱皮し、学校・寮・家庭・
 校外での生活を、新しい態度でス
 タートするよう心掛けていただき
 たい。

(これからの日本の教育)
 現在の日本では、物質的な豊か
 さの陰で、精神的な喪失が進行し
 ているのではないだろうか。高
 度経済成長のために、物質の豊か
 さの中で、「人の心」の大切さが多
 くの人の心から失われつつありま
 す。そのような社会の風潮の中で、諸
 君の多くは育つて参りました。最
 近の中学校などでの少年非行の原

因は、ここにあると考えます。
 そこで、これからの教育では、
 「一つには、自己の個性と能力を
 伸ばし、他人を思いやる心の温か
 さと社会的な連帯意識をもち、生
 甲斐のある人を育て、他方、進展
 する国際社会の中で、信頼と尊敬
 を得るような日本人を育てる」こ
 とが必要と叫ばれています。すな
 わち、「思いやり」と「連帯意識」
 と「国際的視野」が必要であると
 いうことが出来ます。

高専にも外国人留学生の受け入れ
 や、高専教官の開発途上国への技
 術協力などが要求される時代にな
 つて来つつあり、日本の技術が日
 本のためばかりでない時代に移り
 つつあることを知るべきでありま
 す。本校は、これまで十五回合計
 一七九八名の卒業生を社会に送っ
 ていますが、これらの卒業生は、
 高度の技術者として、また新しい
 技術の創造を目指して、国内はも
 ちろん、海外でも活躍しております。

(学習態度)
 高専での五年間の一貫教育は、
 大学受験に煩わされないという利
 点の反面、諸君の心の持ち方次第
 では、ややもすると刺戟の足りない
 生活に陥りがちであります。そ
 こで諸君は、講義・実験・実習な
 どを一步一歩着実に習得し、自ら
 進んで先生方に近づき、図書館な
 どを積極的に利用して、将来、技
 術の新分野を開拓するための基礎
 学力と能力を養うことに、まっ心

掛けていただきたい。
 また、スポーツに励んで、ファ
 イト、チームワーク、フェアプレ
 イの精神の体得につとめ、文学芸
 術などを課外においても勉強して
 豊かな心・広い視野の養成に心掛
 けてほしい。
 さらに、クラブ活動・寮生活な
 どの貴重な経験を通して、一生の
 友となる皆さんの先輩同僚後輩を
 得て、一年生二年生と年を追って、
 人間的にも技術者としても着実に
 成長され、クラスメートが互に励
 まし合つて、入学の時の初心を忘
 れず、共に揃つて五年後の卒業式
 を迎えられることを祈念する次第
 であります。

昭和五十七年四月九日
 有明工業高等専門学校長
 吉村 虎 蔵

学校行事

4・8	始業式
9	入学式・入寮式
19	新入生オリエンテーション(天草)
23	卒業式

1	23	寮生成人祝賀会
2	下旬	吹奏楽部定期演奏会
2	下旬	寮生退出しコンパ
2	下旬	入学試験
3	3	学年末試験(五年)
3	3	学年末試験(四年)
3	3	(一)三年は4
3	3	卒業式
4	23	遠足(雨天)新入生歓迎行事
5	9	寮生球技大会
5	9	春季球技大会
6	14	研修旅行(4E・4C)
6	16	研修旅行(4M)
6	17	前期中間試験
6	17	寮生退歩
6	17	父兄懇談会
6	17	夏季休業
6	17	九州地区高専体育大会
6	17	九州地区高専英語弁論大会(久留米)
6	17	全国高専体育大会(仙台)
6	17	四高専吹奏楽部合同演奏会(大分)
6	17	体育祭
6	17	前期末試験
6	17	後期授業開始
6	17	寮祭
6	17	小文化祭
6	17	寮体育行事
6	17	九州地区高専ラグビーフットボール大会
6	17	冬季球技大会
6	17	後期中間試験
6	17	冬季休業
6	17	寮生サッカー大会・寮生成人祝賀会
6	17	吹奏楽部定期演奏会
6	17	寮生退出しコンパ
6	17	入学試験
6	17	学年末試験(五年)
6	17	学年末試験(四年)
6	17	(一)三年は4
6	17	卒業式

新入生オリエンテーションを終えて

1M 上嶋孝広

横頭張って下さい。

この二泊三日の研修は、厳しい集団訓練や講話があったが楽しかった。来る前は、友達もいなかったが、あまりおもしろくないだろうと思っていたが、いろいろなレクリエーションがあったり、知らない人達とテーブルを囲んで食事をしたり、風呂に入っただけで、雑談をしたり、そうしているうちに、学校では一言も話さなかった人とも友達になれた。これは、この研修での大きな収穫であった。また天草の自然は雄大で、その自然の中で行ったオリエンテーションは、野山を駆け廻り、道に迷ったりしながらもゴールした時の嬉しさは、天草研修の中でも忘れられない行事である。

1E 入来貴範

ぼくが、この天草青年の家にきて学んだことは、自分の家では経験できないようなこと、たとえば、大勢の人間の中で、他人たちと協力しながら、いろいろなことをしたり、自分の家では、気楽にできるが、ここではそういうことは許されないきびしさがある。しかし、そういう生活の中で、ぼくは、人間として、少し成長したような気がする。また、ここで学んだことを、これからの、学校での生活にしろ、家庭での生活にしろ、十分に生かしていきたいと思う。

1E 藤井 司

この三日間の研修によって、いろいろな事々を学んだ。まず第一に団体生活の中での協力、第二に高専に入学しての心のひきしめ、なごほかにいろいろな事を学んだ。しかし、この学びを今後の高専生活などにおいて無にしてはいけな

1E 木原大輔

ぼくは、研修旅行でいろいろな日間、先生方や青年の家の人たちにたいへんお世話になった。青年の家の人には特に、いろいろな注意を受けた。ベッドのこと、食堂のことなど。しかし、これらの注意を受けていなかったら、ぼくたちの今までの生活は、どうなっていたらう。たぶん、いや絶対めっちゃくちゃな生活になっていたと思う。

1E 担任 小沢賢治

一部の委員には、時間及び量的不慣れの仕事が集中し思う様に仕事をさばけず、緊張の連続で、気の毒なくらいであった。その原因はクラス全体のなじみ不足と、研修所から委員への伝達の大半が印刷物によらない短時間内の口伝達であることにあると思う。前者については、そうであるからこそ研修の意義が附加されるものだと思う。後者については、委員をいたすに戸惑わせる損失の方が大であると思う。ともあれ、クラスは、集団に必要なものをつかんでおり、これを各人が充分生かせる様、担任として心がけて行きたい。

1C 西村泰治

去る四月十九日、ぼくにあっては、初めての青年の家の研修だった。そこに着くと、先に来ていた他の学校の生徒が帰る時だった。研修といっても初めてだったので旅行気分であつたが、そこに着いて圧倒された。記憶に残っていることは、まず第一に、時間がとてもきびしいこと、いつも日課表を見ていなければならなかった。次に、環境がいきといていて、とてもきれいだつたこと、どこもみなきれいにそうじされてあつた。それに景色がとてもよかつた。その他いろいろだつた。

1A 山本修一

県立天草青年の家は、風光明媚な所にあり自然に包まれていて、人が自然と出会い、自然と遊び、自然を学ぶ。本当にすばらしい。また、ここでは、人と人との関係を教えられた。人のまごころと思いやり、人に対するやさしさときびしさを教えられた。

1A 担任 中村安生

美しい自然、澄んだ空気の中での二泊三日の研修旅行。日頃ルーズな生活をしている私には、一種の抵抗を感じた。しかし、体調はかえって良くなった。早寝早起き、寝具の整理整頓、食事前の軽い運動、食事の仕方、清掃、スケジュールに従った研修規則正しい生活、それらを行うことによつて教えられること、考えさせられることの多さ。人と共に心おきなく生活する為、互に守るべき知識の多さ、その他諸々必要なものを身に付けようとする場合のきびしさ、等を体験させて戴いた。二泊三日という短い期間で何と多くの収穫を得させて戴いたことか。いろいろなことに對して、せからしい、やかましい、そんなことはとか、と思う人は、得るものが少なかつたらう。

有明高専図書館だより 39

本校の教職員や学生にとつて 図書館とは何か

図書館長 丹後 杏一

この四月から図書館の仕事を担当することになったので、その挨拶をかねて抱負の一端など申しのべてみたい。

「図書館とは何か」と些か大段にふりかざしたようなタイトルを掲げたが、先に新入生に対するオリエンテーションのさいにものべたように、その答はおよそ次の二点につきると思う。

- まず何よりも第一に、図書館は私達にとつての「学問と知識の宝庫」でなければならぬ。教職員・学生が日常の研究や学習、それにクラブなどさまざまな分野で生じたあらゆる疑問を調べ、解決する場所たりうること。そのための資料センターあるいはレファレンス・コーナーとなることをめざし、できるだけ努力をつくしたい。
- 次に図書館は、工業高専といふ途角風景なムードになりがちな本校の環境の中では、「人間としての内面生活を豊かにする」ための「拠点」たりえねばならぬというのが私の持論である。

読書三訓

この三訓は校長先生の御意向で、向てよく本年制定されたもので、図書館の一階と二階に掲げられている。時折目をためてじっくり吟味して欲しい。

- 一、読書は心を豊かにする糧である。
- 二、読書は心のスポーツである。安易な娯楽のみに耽ることなく、すぐれた書物を讀んで精神を鍛えよう。
- 三、読書は人々との出会いである。不断に良書に接して人間的な交わりを広げ、多くの生き方を学ぼう。

昭和57年度 図書館スタッフ紹介

- 図書館長 丹後 杏一
(図書館運営委員)
- 機械工学科 小田 明
 - 電気工学科 近藤誠四郎
 - 工業化学科 城戸 英彦
 - 建築学科 北岡 敏郎
 - 一般科 樋口 大成
 - 庶務課長 合志 昭夫
 - 図書係長 宮川 喜巳
 - 司書 戸上 清子
 - 足達 雅代

昭和56年度学科別貸出図書冊数調

(延入館者数 25,437人)

学科	学年	利用人員	貸出冊数	内										
				000 総記	100 哲学	200 歴史	300 社会科学	400 自然科学	500 工学	600 産業	700 芸術	800 語学	900 文学	
機械工学科	1	144	252	12	7	23	12	95	15	0	4	11	73	
	2	90	114	6	8	8	8	23	8	0	2	3	48	
	3	105	151	2	2	5	3	31	55	0	12	3	38	
	4	151	251	13	3	3	2	17	174	0	4	0	35	
	5	48	75	15	1	0	0	6	43	0	1	0	9	
KEI	538	843	48	21	39	25	172	295	0	23	17	203		
電気工学科	1	296	496	11	9	35	20	119	49	0	38	13	202	
	2	155	247	11	11	16	12	17	80	0	8	0	92	
	3	271	460	20	10	3	9	122	183	0	21	3	89	
	4	417	616	5	0	4	5	19	524	0	2	5	52	
	5	188	307	23	6	9	34	17	172	0	12	3	31	
KEI	1327	2126	70	36	67	80	294	1008	0	81	24	466		
工業化学科	1	196	339	22	11	19	26	109	18	0	17	16	101	
	2	153	242	15	33	13	19	48	25	0	6	11	72	
	3	234	302	14	2	10	8	152	35	0	10	13	58	
	4	155	238	8	6	3	6	89	70	0	12	2	42	
	5	250	389	19	22	7	4	166	84	2	19	3	63	
KEI	988	1510	78	74	52	63	564	232	2	64	45	336		
建築学科	1	158	185	15	4	15	15	52	40	1	3	2	38	
	2	175	247	4	11	14	15	27	90	0	12	1	73	
	3	167	225	8	4	14	7	70	52	1	10	0	59	
	4	235	319	11	5	10	20	15	162	0	12	1	83	
	5	175	251	7	5	9	8	14	169	0	5	1	33	
KEI	910	1227	45	29	62	65	178	513	2	42	5	286		
総計		3763	5706	241	160	220	233	1208	2048	4	210	91	1291	

昭和56年度学科別貸出図書冊数の集計結果をお知らせします。

本年度の図書貸出総数は5706冊と前年度に比し67%という近年にない大巾増となりました。

学科別では、前年度に引き続き電気工学科が最も多く、ことに工業化学科は、昨年の倍の伸びを示したのが目につきました。

また、分野別にみても、産業を除けば、いずれの分野も著しい増加の傾向を示し、学生諸君の全般的な読書意欲が感じられ、今後この好ましい現象が永く持続することを期待します。



昭和三十七年度新入生歓迎のため的小岱山登山は、四月二十九日(木曜)に行われる予定で、学生会役員は体育局長5 A木山を中心にして、入念な準備、下見を行って、当日を待った。

新入生歓迎小岱山登山雨で流れる

学生会長 東 誠一郎

登山、地図作製など狼渡主事の指導のもとに、よく働いたが、折角の苦勞も移らず気の毒であった。翌三十日(金)、学生会長、副会長、体育局長外学生会役員、および各団長が集まり、大会議室で午後五時から、今回の歓迎行事についての反省会を開いたが、以下の要点を紹介してみよう。

五十年度の交通違反件数(本校主事室確認件数)は前年度比にして約16%の減少を見た。このことは学生諸君の交通問題に対する認識が高まったこと、学校の指導に従ったこと、宮川先生の熱心な御指導の成果など幾つかの原因が考えられるのだが、ともかくも学生諸君と共に素直にこの結果を喜びたいと思う。しかし、四月二十八日付の朝日新聞の広告面に、大牟田地区は人口十万人当りの事故率は八〇・六で、不名誉なことに断然他都市を引き離している。

交通違反件数約15%減る!

本校でも、最近事故件数(含被害者)が増加の傾向にあり、速く、皆で無事故、無違反の最終目標に向かって努力したいと思ふ。飛ばし過ぎ、寝不足不注意、危険です、飛ばし過ぎ、危険です、寝不足積み過ぎ、危険です、皆で無事故、無違反の最終目標に向かって努力したいと思ふ。

私には熊本の近くから毎朝自動車で通勤しているのだが、最近、玉東ナンバーをつけた50ccのバイクで通う本校学生の運転振りに感心した。A君(名前を確認していない)はクラブ活動をしているのであるが、夕方七時近くに二〇八号線を通って帰っていた。彼の車は30kmしか出せぬので、我々自動車族はすい〜と側を通り過ぎて行くのだが、彼は他の車の速度や動きに幻惑されるような素振りには全くなく、制限速度を忠実に守って動かない。

学校の往復に見かけたバイク通学生のちよつといい話

こちらは彼を後に置いて行く恰好になる。しかし、赤信号で車の行列が出来ると、やがて後から彼がやって来て、今度は自動車の行列を横目に、すい〜と、我々を置き去りにしてゆく。彼は背筋をしゃんと伸ばし、ヘルメットをきちんとつけて、道路の端を軽快に走って行く。夕間に心せられる時に、自らの分限をわきまえて、道路交通法を正しく守って、淡々として走り続ける彼の姿には一種の風格さえ感じられるのだ。

前号訂正補足 前号(第48号)3頁で紹介しました昭和57年3月卒業予定者の進路の記事で誤りがありましたので左記のとおり訂正し、お詫びします。

教室通信

機械工学科

- 石崎勝典先生 3月28日転居 815 福岡市南区高宮1丁目17番14-303号 TEL 092-521-1019
中河原又吉先生 4月1日付で退職されました。昭和48年から、工作実習、工学実験の指導に当たって頂きました。長い間ありがとうございました。今後の御健康をお祈りします。839-02 三池郡高田町下楠田 TEL 09442-2430
松岡誠治君44機、オーストラリアに出張中
牧尾達実君45機 新築転居441-32 愛知県豊橋市西赤沢町字深山1の103 TEL 0532-23-2665
城戸和仁君46機 東洋ベアリング(株)九州支店(803 北九州市小倉北区上津2丁目4番19号) TEL 093-571-6581
中尾(江口)公二君46機 中尾鉄工所の責任者として工場の企画・運営に、また山川町でチャリティなどで意欲的に活躍し、将来を期待されていたが、57・3・24交通事故にて逝去。遺族は夫人と子供2人(835-01 山門郡山川町野野603) 御冥福を祈ります。
鈴木廣一君49機 57・3・10よりバグダットへ出張中(2年半の予定)
内田信行君52機 転居230 横浜市鶴見区北寺尾7-1-19 千代田化工建設 鶴見社宅1-7 TEL 045-583-0430
原田照利君52機 勤務先が移転、九州大学生産科学研究所(816 春日市大字春日字坂本 TEL 092-573-9611(内)650) 840 佐賀市神岡町6丁目9-3 TEL 0952-30-3423
和田光一君53機 57・5・1結婚、新婦良美さん(旧姓田畑) おめでとうございます。
藤田知文君53機 57・3・14結婚、新婦絹枝さん(旧姓齊藤) おめでとうございます。(なお、56・6より筑後市大字上北島883 アポロ電子工業(株)に勤務中)
中武万能54機 57・3・27結婚、新婦弘美さん(旧姓井島) おめでとうございます。
最近下記の諸君が学校に来訪 城戸和仁君46機、原田照利君52機、鶴 良夫君45機

電気工学科

- 以下の方に転勤・転居がありました。
川谷耕司君45電 富士通沼津工場OS部第二OS課 410 沼津市西沢田454の1 平松コーポラス403 TEL 0559-22-3335
荒牧秀樹君48電 富士通沼津工場本体事業部第一検査部第一試験課(410-03 沼津市宮本140) 410 沼津市吉田町18-35 サンコーポ吉田408号
小田和彦君49電 全日空福岡空港支店運航課 福岡市博多区上白井柳井348 福岡空港ターミナル TEL 092-611-8511
福岡市西区別府4-3-11 全日空西田寮 TEL 092-831-1646
大倉健裕君56電 三田工業(株)熊本営業所 865 熊本県玉名市上小田339 TEL 09687-3-6309
中山富男君56電 府中市富士通F1P 183 東京都府中市本宿町1-18-2 TEL 0423-60-4966
水原誠二君56電 182 大阪府枚方市養父西町14-17 日電技方寮 TEL 0720-57-7746
森川薫雄君56電 869-01 熊本県玉名郡長洲町清順寺2659-2 TEL 09687-8-6831(三菱サービス 株:熊本営業所)

増田義明、村橋喜満(52建)、松本 崇、村松健児(53建)、田中良親(55建)、井上久州夫、今村利弘(57建)、金丸竜太郎(49建)。

- 清水 泉君55電 富士通(株) 郷 孝司君54電 福岡県警、両君とも、勤務地、住所未定
次の方が結婚されました。おめでとうございます。
井上一樹君48電 昭57年3月21日 於:大牟田浄真クラブ、新婦富美子さん(旧姓福田) 新居864 熊本県荒尾市牛水753-3 TEL 09686-4-2870
中川祐一君52電 昭57年3月14日 於:玉名福祉会館 新婦厚美さん(旧姓米村) 新居865 熊本県玉名市築地字芝ヶ浦

工業化学科

- 藤本充夫君50化 結婚 57年2月 新婦一二三さん(旧姓佐原) 882 延岡市昭和町2丁目2203番地 昭和町アパート341 TEL 0982-21-7793
出雲秀明君50化 結婚 57年4月 新婦昇子さん(旧姓村上) 837 大牟田市久福木621-2 TEL 0944-55-7662
城森みどり君(旧姓仲野)51化 536 大阪市城東区今福東1の2の1の412号
内田祐子君(旧姓上原)54化 230 横浜市鶴見区北寺尾7の1の19 千代田化工建設鶴見社宅1の7 TEL 045-583-0430
大城雄一・洋子(旧姓芋生)君 54化 結婚 57年3月28日大牟田市にて挙式 804 北九州市戸畑区西大谷2丁目15番地24号楽天荘 TEL 093-881-7820
前田重徳君 57化 440 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1の1 豊橋技科大平宿舎B-218

建築学科

- 上原修一先生が着任されました。先生はいままでなく建築の第4期生で、大蔵省、熊本大学を経て九州大学大学院を修了されました。正に熱望されていた本学科出身教官の誕生です。学科一同喜んでおります。
退官後も非常勤として建築生産を教えて頂いた神田伸三先生が辞められました。長い間ありがとうございました。建築生産は亀井惣市先生に教えていただいております。先生は竹中工務店九州支店佐賀出張所長をされています。
相良比呂志君49建 1月13日結婚、新婦は由子さん。 559 大阪市住之江区南港東1-6-3-514
安田齊君51建 1月15日結婚、新婦は美智子さん。 御二組共おめでとうございました。
悲しい知らせです。藤島和博君52建(豊橋技科大修士2年)が2月16日亡くなりました。死因は心臓マヒで昨年末より病気がちだったそうです。頑張って卒論もほぼ90%程度書きあげており、又、これからやっと社会へ出るという時だっただけに残念です。御冥福をお祈り致します。
梶原孝広君56建 昨年現場での検査中、4階より足をすべらせ落下・入院し心配しましたが、その後の経過も良好で、4月5日より通院治療にかわり、午前中は出社しているそうです。快復を喜びたいと思います。
松田忍君54建 三井ホーム(株)東京支店営業課 160 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル6階 TEL 03-348-3131
本木幸男君55建 今村利弘君57建 三井ホーム(株)横浜支店営業課 220 横浜市西区北幸1-4-1 横浜浜理ビル21階 TEL 045-319-5131
池内泰夫君57建 577 東大阪市御厨中2-3-28(株)今西組八戸ノ里寮
井上久州夫57建 福岡市中央区平尾3-9-9 世界文化ビル5階 松尾建設(株)寮内
永尾誠君57建 344 埼玉県春日部市備後字須賀1016の1戸田建設(株)武里寮 TEL 0487-35-0938
吉田豊美57建 (株)前澤建築事務所 210 川崎市川崎区駅前本町1-1 三協ビル TEL 044-222-7191
橋本知章君57建 814 福岡市城南区別府5丁目13-19 井上アパート西5号
学校来訪者(敬称略) 増田義明、村橋喜満(52建)、松本 崇、村松健児(53建)、田中良親(55建)、井上久州夫、今村利弘(57建)、金丸竜太郎(49建)。

地区大会を前にして

○硬式野球部

我々野球部は、猿渡、宮川、吉田先生のもと、部員31名が夏の高専大会をめざして、日夜、練習に励んでいます。今年は、例年よりも力がおそろえていくというところで、なおさらがんばらなくてはなりません。そのためには、チームが一丸となって努力し、勝利を齎し合わなければなりません。

一昨年は九州大会で優勝し、全国大会で三位という好成績をあげ、去年もがんばりましたが、一回戦でおしくも敗退してしまいました。だから、今年こそは全国大会優勝をめざしてがんばろうと思っております。

○硬式庭球部

硬式テニス部は、現在部員数が37名という大所帯で限られた時間を有効に使い大会に優勝できるような全員一丸となり、毎日練習に励んでいます。今年は、高専大会が本校で開催される予定なので是非全国大会に出場できるよう、頑張ります。

○卓球部

昨年は地区大会においては団体戦、個人戦ともに優勝という輝かしい成績を残しました。今年も昨年に続け、の言葉で頑張っております。新年度に入り新一年生も入部し練習にも一層活気が出て来ましたが、練習にも多くの部員が欲しい状態です。我こそと思う人、初心者、経験者を問わず歓迎します。意欲ある人上り来れ。

○軟式庭球部

今年度に入ってからのこと、ある高校との練習試合後の話です。高校生のいわく「試合をしていて馬鹿にされているようだった、失敗すると笑い、ラケットを投げる、次の試合に移る動作が緩慢である、等々」であった。もちろん我々には馬鹿にする気は毛頭なかったのだが、そう感じられても仕方のない試合態度だった。この事を深く反省して、今後は相手のことを考えて試合をします。そして高専大会では優勝を意識して

○バレーボール部

我々バレー部は現在部員数25名。来る高専大会へむけて目下、甲斐主将の下、闘魂を合言葉に、連日厳しい練習に励んでいます。我々にとつて高専大会は大きな目標であるし、今年は本校で開催される。そのため、恥ずかしい試合はできない。体の限界までボールを追ひ、チームワークと根性で低身長というハンディを克服したい。とにかく、我々は悔いを残さぬように頑張るつもりである。

○バスケットボール部

わがバスケット部は、高専大会に向けて練習に励んでおります。また、毎日の練習だけでなく、学生スポーツとしての本分も忘れぬよう心懸けています。練習に現われ、高専大会の成績として現われたいと思っております。ここ三年間決勝リーグで敗れて全国大会に出場しておらず、今年こそはぜひ出場したいと思っております。みなさん応援して下さい。

○柔道部

我が柔道部は過去において、全国大会優勝など数多くの伝統を先輩が築いておられます。しかしその栄光は過去のものであり、我々部員一同今年の高専大会において後悔のない試合をすべく、連日練習に励んでいます。

○ハンドボール部

我々ハンドボール部は、「ラフ＆パワ」をスローガンに、今年も全国大会出場を狙っています。選手層の薄さは、否めませんが、春休み

○剣道部

さらに、今年是我々の地で柔道競技が行われるので、優勝を目指してがんばっています。ぜひ、御協力、御支援御願います。

○陸上競技部

夏の到来を感じる昨今ですが、新たに新入生6名も加わり、来たる7月24・25両日の大会に向けて練習にも熱が入る毎日です。本来ならば運動クラブの中心となるべき我が陸上部も、最近はその部員数も少なく、他校との格差は広がるばかりです。過去の栄光も捨て去り、残念なことですが、気新たに、「栄光よ再び」をスローガンにし、煌めく太陽を背に、若さ溢れる炎を燃やし続けていきます。

○弓道部

弓道は名称が西日本地区弓道大会より高専大会と変わり、内容も今までは単なる十二射による的中で決まっていたが、これからは三校リーグ戦による勝ち抜きによるものと厳しくなりました。この厳しさに打ち勝ち今年こそは優勝をと老朽化した道場にもめげず部員一同日々練習にはげんでいます。

○水泳部

これからがシーズンとなる水泳部は、毎年入賞していましたが、去年、おしくもゼロという結果に終わりました。その屈辱をばらすため、四月に入ってから、プール掃除をし、暖かくなれば泳げるように、今まで以上に、泳ぎ込めるようにと、部員全員、はりきっております。優勝するためには、練習しなさい、今迄以上の練習で、勝利をつかむ、この意気込みで、高専大会に向けて、頑張ります。

編集後記

中には、初めての合宿も試み、基本技術の習得と、基礎体力の向上には、かなりの成果をあげ、近年では、最も充実したメンバーが、一丸となって、高専大会に臨みます。フルモデルチェンジを超えたスーパーチェンジ。一新ハンドボール部に、応援ください。

弓道は名称が西日本地区弓道大会より高専大会と変わり、内容も今までは単なる十二射による的中で決まっていたが、これからは三校リーグ戦による勝ち抜きによるものと厳しくなりました。この厳しさに打ち勝ち今年こそは優勝をと老朽化した道場にもめげず部員一同日々練習にはげんでいます。

◎今回の特集記事は「五十六年の学生の問題とその指導について」担任の先生方に御意見を伺ったものをもとにして、整理不足を気にしつつ、ここに反省抄録としてみた。御家庭の保護者の方々にも読んでいただきたいと念願してのことである。

◎新・旧後援会長の言葉を戴いた旧会長林さんの数々の御苦勞に深謝し、原新会長に会員の皆様の御協力を賜うることをお願いいたします。

◎今年もまた学生達のお付合で、様々な問題に頭を抱えながら新緑の季節を迎え、本号をお届けする本紙に対して去年にまして御指導・御支援を賜うよう皆様にお願ひします。

本年三月末、環境開発教育研究施設と環境風洞上屋が完成した。その各々について紹介する。

1 環境開発教育研究施設
建物は総合実習センターの東側に建っている。有明高専より第四七号の総合実習レポート(15)に紹介したような平面であり、一階一四八、八㎡、二階一四四㎡の鉄筋コンクリート二階建の白い建物で緑に映え、窓から秋尾台地のかなたに、小岱山を望むことができる。落着いた環境にある。

南に面した玄関を入ると、右側が精密器材室兼管理室であり、ここに実験に必要な精密器材が保管される。

左手の部屋は環境汚染第一分析室であり、この中にガスクロマトグラフが設置され、分析に威力を発揮する。

玄関の北側は地震災害シミュレーション室であり、地震災害シミュレーション装置が設置され、地震時における構造物の震動解析に対応できる。

二階南西及び北東にはエネルギー関係第一実験室、エネルギー関係第二実験室が配置され、ダブルモノクロメーター磁気分光光度計及び熱電導率測定装置が設置され、これを使用して太陽エネルギーの集熱器の性能の測定等を行うことができる。

北西にある環境汚染第二分析室にはアルゴンプラズマ分光分析装置が設置されている。

総合実習レポート(16)



特別講義 写真1 環境汚染に思う

3 総合的実験実習に関する特別講義
一月二日(木)午後二時「環境汚染に思う」の講演題目で特別講義を視聴覚室において開催した。講師は熊本大学名誉教授、四宮知郎氏、受講生は各学科の四年生である。校長はじめ教職員の多数の参加もあり、講演後の質疑も活発で極めて盛況であった。

講演の内容は先生の体験に基づいたものを明快にユーモラスに述べられたのでわかり易く、説得力があった。最後に民生、自由は結構だが、度がすぎればこれが公害につながることを、並びに、程よいところに人の道があると結論を出され、多くの感銘を聴衆に与えられた。

4 総合実習に関するアンケート調査結果、その他
昭和五一年度から六六年度にわたり、各学科三年生以上の総合実習に参加した学生に対してアンケート調査を実施しているが、それについて少し触れてみたい。

総合実習の実習内容は毎年変化しているにもかかわらず、実習内容が一貫して実験設備及びその付属設備の設計製作であったために、調査結果にはそう大きな変動は見られない。しかしアンケート調査から総合的に言えることは、学生が実習に参加し、創意工夫して作業にあたるようになったことで総合実習に対する理解度は向上し、教育効果も上昇傾向にあると言え

アンケートの方法は、調査票とマークカードを個人別に配布し、各設問に列記してある事項に対して最も感じの近いものを選び、その該当番号をマークカードに記入させ、それを電算機で集計する。(建築 吉岡)

表-1 昭和56年度後期総合実習経過表

実習項目	実習経過 (日)												実習者数・時数(人時)										
	10			11			12			1			2			3			M	E	C	A	小計
風洞上屋 設計	意匠設計																						0
	構造設計																						0
	構造計算																						0
	積算																						0
空気取入れ システム 及び吹出し システム 建築工事	塗装工事	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●				69	430	499	
	施工工事	●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●				36	37	386	459
	鉄骨製作	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	461	147					608
	通算累計																461	183	106	816	1566		
	年間累計																1270	364	106	1739	2479		

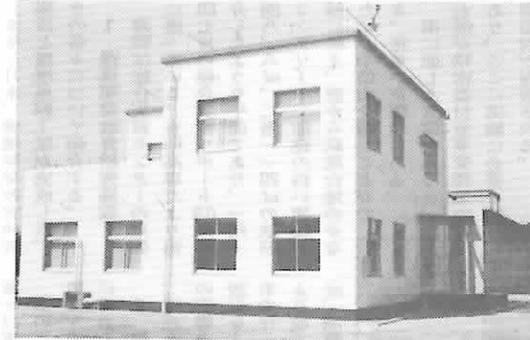


写真3 環境開発教育研究施設東面



写真2 環境開発教育研究施設正面



写真5 テニスコートより環境開発教育研究施設及び環境風洞上屋を望む

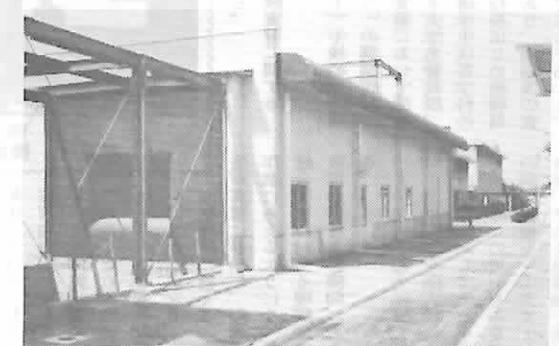


写真4 環境風洞上屋



写真7 環境汚染第1分析室
ガスクロマトグラフ



写真6 南面の植樹



写真9 環境汚染第2分析室
アルゴンプラズマ分光分析装置

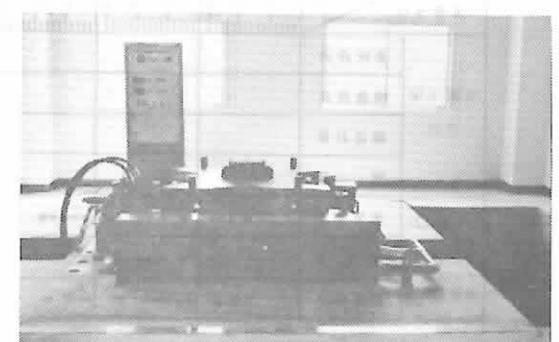


写真8 地震災害シミュレーション室
地震災害シミュレーション装置